

宮後 浩 (株)コラムデザインセンター『春の叙勲』を受賞!!

《以下産経新聞記事抜粋》

18日付で発令された平成23年春の叙勲の受章者に府内から144人が選ばれた。教育や保健衛生、社会福祉、地方自治など、さまざまな分野で貢献した功績が認められた。瑞宝単光章 宮後浩さん(65) 「完成予想図」裾野広げ建物や街並みなどの完成予想図「パース」を40年間、描き続けてきた。と同時に27歳の時に日本の先駆けとなるパース講座(現「コラムデザインスクール」)を開講し、1万人以上の後進を育ててきた。

教育や社会福祉、警察、消防関係者などの受章が多い中、「技能検定功労という分野で受章でき、驚きとともにうれしさを感じています」と笑顔を見せた。大阪生まれの大阪育ち。4人兄弟の末っ子で、幼いころから絵を描くことが好きだった。上京し多摩美術大学に進学、インテリアデザインや建築を学んだ。建築・設計業に進んだ長兄の勧めもあり、昭和47年、建築デザインを専門とする「コラムデザインセンター」を開設。翌年、パース講座を始める。「最初は1人で外注のパースを描いていたが、急に需要が増え、パースの描ける社員が必要になりました。でも、即戦力となるような人材がいない。だから、講座で育てよう…」

関西国際空港や神戸空港のパースも担当したが、最も心に残っているのは、阪神大震災直後、建築や都市計画の専門家ら7人とひざ詰めで5日間、神戸の復興計画を激論し、そのプランをパースに描きあげたこと。そのパースの図面は兵庫県知事に届けられた。パースは、言葉にできないイメージを伝える視覚へのプレゼンテーションという。「“一目でわかるパースの魅力”を、建築についてあまり詳しくない人にも伝えていければ」。会社なら定年の年齢を超えたが、まだまだ意欲は尽きない。

それでは、宮後 浩さんにインタビューさせていただきます。

聞き手 関西支部 湯浅 禎也

湯浅：まずは、春の叙勲おめでとうございます。

宮後：ありがとうございます。私自身、叙勲とは縁がないものと思っていたので、驚いています。

湯浅：私は叙勲というもの自体あまり詳しく知らないのですが、どういう功績でいただけるものなのですか？

宮後：私の場合「国、地方行政に於いて、永年にわたり建築透視図制作技能に関する指導並びに検定に寄与した」という事で、頂いたものですが、職業能力に関して、その功績が認められたということらしいです。

湯浅：宮後さんはこれまでも、60歳を過ぎてから、博士号を取得されたり、本業以外の篆刻で日展に入選されたりと、通常の人の何倍もの経験をされてるわけですが、そのあたりの、モチベーションはどこからでくるのでしょうか？

宮後：何が自分のできることで、より多くの人に喜んでもらえたら自分自身も嬉しくなる訳で、何をすれば喜んでもらえるかな？そのためにはまず自分のスキルを上げることが必要だと感じています。ただ自己満足で終わらない為には、それなりのレベルが必要になってくるし、その為には、認められる資格も必要になって……

この歳になると、自分にできること、できないことがはっきりわかってきて、やれることを、精一杯やっています。

湯浅：業界の先駆的また人生のよき先輩として、我々、後輩になにかアドバイスをお願いします。

宮後：我々、プレゼンを業務にしているものは、どうすれば相手が喜んでくれるか、何を求めているかを知る必要があると思います。人は十人十色いろんな人がいろんな事を求めているわけですから、できるだけ、多くの人と出会い自分の考えを押し付けるのではなく、いろんな考え方があるということを理解することですね。相手の立場になって考えれば、その要求に対応する答えが、でてくるように思います。プレゼンテーション イコール コミュニケーション、これがすべてではないでしょうか。

湯浅：貴重なアドバイス、ありがとうございました。

